研究紀要　３６号

平成３１年度

研　究　紀　要

広島市立広島特別支援学校

御　挨　拶

平成３１年度広島市立広島特別支援学校「紀要」を御拝読いただきありがとうございます。本校の実践研究をまとめ、振り返ると共に次年度の研究につなげていくことや、小・中・高等学校等各関係機関に御覧いただき活用していただきたく作成をしました。この紀要が皆様にとりまして、児童生徒の指導・支援の一助になれば幸いです。

さて、本校の学校教育目標は、「自立と社会参加を目指し、一人一人の力を伸ばして、主体性をもって豊かに生きる人間を育てる。」です。学校教育目標の達成に向けて研究・研修を行っています。本年度から新たに３年間の研究主題を設定しました。「主体的・対話的で深い学びを目指し、思考を支える『ことば』の力を育む授業づくり」です。一年次の副題は、「『ことば』のイメージを広げ、深めよう」です。二年次は、「『ことば』を使って伝え合おう」、三年次は、「『ことば』の力を活用しよう」としています。研究の目的は、主体的・対話的で深い学びを目指し、思考を支える「ことば」の力を育むために、国語科の授業の在り方を明らかにすることです。この３年間の研究で目指す児童生徒の姿は、児童生徒が「ことば」イメージを広げ、深め、「ことば」を活用しながら発信したり、伝え合ったりする姿です。

本校では、平成２０年度から毎年公開授業研究会を実施しています。令和元年１１月２８日（木）に公開授業研究会を開催し、広島市内の小・中学校等の先生方を始め各方面から当日１９３名の皆様に御参加いただき、盛会裏に終えることができました。御参加していただきました皆様方に、改めまして厚く感謝申し上げます。研究協議会では、熱心な協議をしていただきました。高等部生徒による案内やパンの販売では、生徒の活躍が見られました。教材・教具の展示会では、多くの方々に御覧いただきました。ポスター発表では、発表する先生方の熱い言葉で盛り上がりました。御講演をいただきました島根大学学術研究院教育学系准教授　樋口和彦先生には、「主体的・対話的で深い学びを目指し、思考を支える『ことば』の力を育むための授業づくり　～子どもの伝えたい気持ちを育て、ことばの内面化を促進するための手立て～」と題しまして御教授いただきました。樋口先生におかれましては、年３回にわたって御来校の上御指導をいただき心より感謝申し上げます。引き続き、御支援をいただく予定です。

公開授業研究会後も、各学年・学部ごとの研究、学部を縦割りにしたグループでの「スーパー学部研」や全体研修会等を行い、継続的に研究を推進しています。本年度の研究を振り返り次年度につなげてまいります。児童生徒の豊かな将来に向けて、「広島市立広島特別支援学校チーム」一丸となって今後とも研鑽を積んでまいります。

結びとなりましたが、本年度の研究推進に当たり、懇切・丁寧な御指導・御助言を継続的に賜りました、島根大学学術研究院教育学系准教授　樋口和彦先生、広島市教育委員会特別支援教育課主任指導主事　満汐順子先生、同指導主事　大久保誠先生、同指導主事　金本裕史先生、同指導主事　中岡美穂先生、広島市教育センター指導主事　西田由香先生、広島市立高須小学校長　平本英二先生、広島市立五日市東小学校長　西山美香先生、広島市立みらい創生高等学校教諭　堀川淳子先生　に厚くお礼申し上げ御挨拶といたします。ありがとうございました。

令和２年３月吉日

広島市立広島特別支援学校長　　中　尾　秀　行

目　　次

挨拶

Ⅰ　研究の概要

１　研究主題・・・１

２　研究主題設定の理由・・・１

３　研究の目的・・２

４　研究の方法

⑴　「ことば」のイメージを広げ，深めるために・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

⑵　各種研修会・・・２

⑶　授業づくりシート・・・３

Ⅱ　研究の実際

１　授業実践（公開授業研究会）

⑴　小学部第２学年単一学級　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

⑵　小学部第２学年重複学級　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

⑶　小学部第５学年単一学級　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

⑷　中学部第２学年単一学級　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

⑸　高等部第１学年単一学級　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

⑹　高等部第１学年重複学級　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

２　「ことば」の力を育む授業づくりを目指して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果・・・１９

２　課題・・・１９

３　本研究のまとめ・・・１９

【引用・参考文献】・・・２０

Ⅰ　研究の概要

Ⅰ　研究の概要

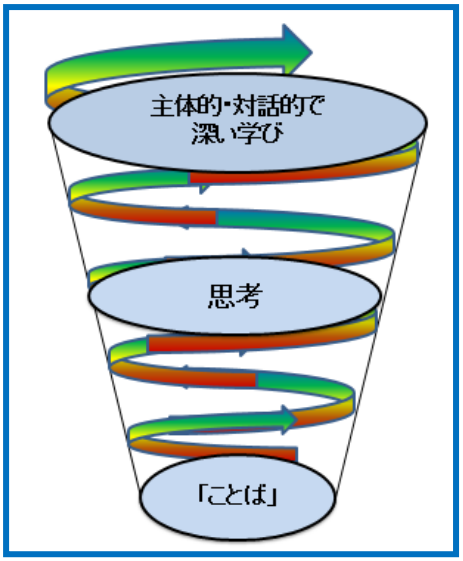
１　研究主題

主体的・対話的で深い学びを目指し，思考を支える「ことば」の力を育むための授業づくり

２　研究主題設定の理由

本校では，平成２５年度から３年間では体育，保健体育で，平成２８年度から昨年度までの３年間では，日常生活における指導において，環境づくりに視点を当てた授業づくりに取り組んできた。「わかる」，「できる」，「かかわりあう」を大切にし，教師とのやり取りだけにとらわれず，物とのやり取り，友達と自分とのやり取りの中で，分かって動ける支援を工夫したことで，児童生徒が主体者として活動に取り組む姿が見られるようになった。この授業づくりを本校のスタンダードとして継続しながらも，児童生徒のさらなる自立と社会参加を見据えた授業づくりを目指すこととした。

新学習指導要領には，新しい時代に必要となる資質・能力の育成，各教科等の目標や内容を構造的に整理し，充実を図るとともに，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善などが示されている。本校では，主体的・対話的で深い学びを目指す際，児童生徒が思考することが重要であり，その思考を支えるものが，「ことば」の力であると考えている。（図１）そこで，研究主題を「主体的・対話的で深い学びを目指し，思考を支える『ことば』の力を育むための授業づくり」とし，児童生徒の「ことば」の力を育むための授業改善に取り組むこととした。なお，「ことば」とは音声言語のみでなく，表情，微細な動き，身振り，サイン，発声，喃語などの児童生徒が発するあらゆる表出を示している。（図２）



【図１　主体的・対話的で深い学びの実現のために】

【図２　「ことば」とは】

本研究は３年次計画で行い，１年次である今年度は，「『ことば』のイメージを広げ，深めよう」を副題とし，「ことば」と対象を結びつけることに着目し，授業づくりに取り組んだ。２年次は「伝え合う」こと，３年次は「活用する」ことによって，児童生徒の思考を支える「ことば」の力を育んでいきたいと考えている。なお，本校では教育課程上，国語科を扱わない類型があるため，国語科，自立活動で実践することとしている。

【表１　研究計画】

主体的･対話的で深い学びを目指し，思考を支える「ことば」の力を育むための授業づくり		
平成31年度（1年次）	「ことば」のイメージを広げ，深めよう	国語科 自立活動
令和2年度（2年次）	「ことば」を使って伝え合おう	国語科 自立活動
令和3年度（3年次）	「ことば」の力を活用しよう	国語科 自立活動 合わせた指導

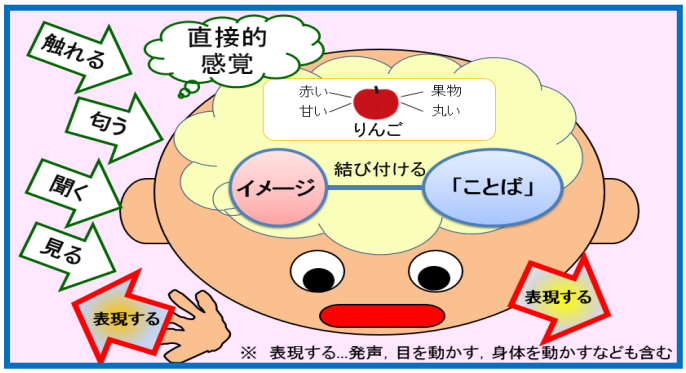
３　研究の目的

主体的・対話的で深い学びを目指し，思考を支える「ことば」の力を育むために，国語科・自立活動の授業の在り方を明らかにする。

４　研究の方法

(1)　「ことば」のイメージ広げ，深めるために

本校では，「ことば」のイメージを広げ，深めるためには，「ことば」を音声言語として獲得していくだけではなく，対象と「ことば」を結び付けることが必要であると捉えている。例えば，「りんご」という対象と「果物」，「赤い」，「甘い」，「丸い」などの様々な側面から言葉とつなげていくということである。物に触れたり，匂ったり，聞いたり，見たりするなどの直接的感覚によって対象と言葉を結び付けることや，見聞きしたり，経験したりしたことを通して，自分の語彙として身に付け，それらを表現する経験が，対象と「ことば」を結び付け，「ことば」のイメージづくりにつながっていくと考えた。



【図３　「ことば」のイメージづくり】

(2)　各種研修会

ア　学部研修会

小学部・中学部で全５回，高等部で全４回，各学部で学部研修会を実施した。授業づくりシートの作成・見直しや，公開授業学級の授業検討を行った。公開授業学級の教諭が，授業を実践する上で悩んでいることを共有し，授業の一場面を写真や映像で流し，内容についての検討も行ったことで，公開授業学級の取組を，学部全体で共有することができた。

＜学部研修会＞

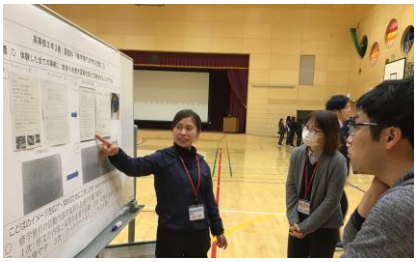
イ　スーパー学部研修会

全校を対象として四つの縦割りグループに分け，スーパー学部研を行った。学部を越えたグループでの協議において，各学級の国語科・自立活動の取組共有や，取り組む上で大切にしたいポイントの確認を行った。各学部，類型における，身に付けておきたい力や，目指す児童生徒の姿を共有することができた。

＜スーパー学部研修会＞

ウ　ポスターセッション

１１月と１月の全２回，各学部から，４～８学級がポスターセッションを行った。思考を支える「ことば」の力を育むために，授業のねらい・指導計画・授業内容などの工夫した点について交流したことで，主体的・対話的で深い学びを目指し，思考を支える「ことば」の力を育む授業づくりのための取組の共有を図ることができた。



＜ポスターセッション＞

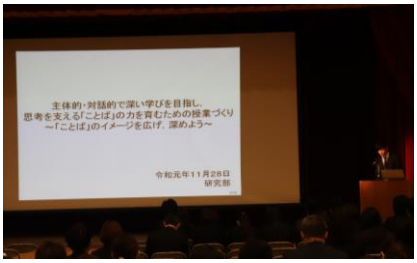
エ　全体研修会

校内の教員全員を対象とし全４回，全体研修会を実施した。７月に実施した全体研修会では，島根大学学術研究院教育学系准教授　樋口 和彦様より，「主体的・対話的で深い学びを目指し，思考を支える『ことば』の力を育むための授業づくりー『ことば』のイメージを広げ，深めるためにー」という演題で，御講演を頂いた。１月には，ポスターセッションを実施し，学部を越えて授業づくりの共有を行った。

＜全体研修会＞

オ　公開授業研究会

令和元年１１月２８日に「平成３１年度　広島市立広島特別支援学校公開授業研究会」を実施した。小学部３学級，中学部１学級，高等部２学級の授業公開，研究協議会を行った。研究会の中では，本校の研究発表，ポスターセッション，教材・教具展示会を実施した。研究会の最後には，島根大学学術研究院教育学系准教授　樋口 和彦様より，「主体的・対話的で深い学びを目指し，思考を支える『ことば』の力を育む授業作り　ー子どもの伝えたい気持ちを育て，ことばの内面化を促進するための手立てー」という演題で，御講演を頂いた。



＜研究発表＞

＜研究協議会＞

＜講演会＞

(3)　授業づくりシート

小学部・中学部，高等部の全ての学級において，授業づくりシートを使用し，授業改善を行った。国語科，国語科のない類型については自立活動の一つの単元または題材の指導計画を立て，次ごとに見直しを行うことで，「ことば」のイメージを広げたり深めたりする授業づくりに活かすことや，授業を構成したり，指導案を作成したりする際に，活用できることをねらいとしている。詳しい書式は４ページに記載。（図４）

の授業づくりシート

（　　）部　（　　）年（　　）組　担任名（　　）

単元・題材名：
単元・題材の目標：「ことば」のイメージを広げ，深めるため ○ ○ ○

実態 **（１名抽出）**	・ ・ ・
個別の目標	○ ○ ○

	次ごとの取組	**児童生徒の姿（取組終了時）**
１次	・	・
２次	・	・
３次	・	・

考察 **（単元・題材終了時）**	・

※「取組」の内容の修正に関しては，二重線で消し，追加はゴシック体で記入する。

【図４　平成３１年度　授業づくりシート】

Ⅱ　研究の実際

授業の様子

小学部第２学年１組
「おはなしをたのしもう～さつまのおいも～」

小学部第２学年６・７組
「おはなしをたのしもう～ぞうくんのさんぽ～」

小学部第５学年２組
「食べ物からことばを知ろう」

中学部第２学年３組
「ペープサートを使って表現しよう」

高等部第１学年１組
「インタビューをしよう」

高等部第１学年９組
「仲良し三人組と素敵な体験」

1　授業実践（公開授業研究会）

(1)　小学部第２学年単一障害学級の取組

国語科　の授業づくりシート

小学部　第２学年　１組　担任名（　本多裕美　砂田麻美　）

単元：「おはなしをたのしもう～さつまのおいも～」
単元の目標：「ことば」のイメージを広げ，深めるため ○　絵本を見聞きする中で，自分が好きな場面を期待したり，次の場面を見通したりすることができる。 ○　絵本のあらすじに沿って，場面に出てくることばを自分なりの表現方法で表現することができる。

実態 **（１名抽出）**	・　教師が見本を示すと，動きは小さいが模倣することができるものもある。 ・　写真カードやイラストカードを手掛かりに活動することが多く，日常生活でルーティーン化されているものであれば，音声だけの指示でも分かるものが増えてきた。
個別の目標	○　教師の読み聞かせを見聞きして，次の場面をイメージしながら，「ことば」や動きで表すことができる。 ○　教師や友達の掛け声に合わせて芋を引っ張る動きをすることができる。

	次ごとの取組	**児童の姿（取組終了時）**
１次	・　絵本を見聞きして，絵本に出てくる日常生活の動作の模倣を歌に合わせて行う。 ・　「歯磨き」「食べる」「寝る」などの「ことば」に関連する物品をイメージし，動きを模倣したり，物品で動作したりする。	・　歌や擬音語，教師の手本を手掛かりに歯磨きのときには，「シャカシャカ。」の擬音語を手掛かりに動作の模倣をすることができた。 ・　歯ブラシ，御椀，布団など場面に合わせた物を平仮名から選び，実際に正しい物を取ることができた。また物品を使用して教師の模倣をすることができた。
２次	・　絵本を見聞きして，さつま芋の芋掘りの場面で「うんしょ，とこしょ。」の教師の掛け声を手掛かりに綱引きを行う。 ・　場面に合った登場人物や平仮名，物品などのシールを選んで，貼ることで絵本を作り，物語を振り返る。	・　芋掘りの活動をする中で，「うんしょ，とこしょ。」と言いながら綱を引っ張ったり，「すっぽーん。」の掛け声で芋が抜けた感覚を喜んだりすることができた。 ・　絵本の場面にあったシール貼りを行い，振り返る中でその場面を楽しみにすることができた。

考察 **（単元終了時）**	・　絵本の読み聞かせを工夫することで，絵本に注目することができた。物語の流れが少しずつ分かってくることで，ページをめくる前から、自分から発声し場面を楽しみにすることができた。おならを臭がる場面では「くさーい。」というせりふに合わせて自分から鼻を摘まんだり、手を振ったりする動きで表現をすることができた。また，「歯磨き」や「寝る」動きを教師が示すと，嬉しそうに模倣し場面ごとの活動を表現することができた。芋掘りの場面では，最後まで芋を引き抜くことができた。その姿を映像で撮り，その場で見せると自分の頑張る姿を一生懸命に見る姿が印象的であった。即時評価することで意欲を高めることができた。

ア　「ことば」のイメージを広げ，深めるための工夫

芋掘りのイメージをつかめるように「うんしょとこしょ」「すっぽーん」の掛け声に合わせて，芋を抜く活動を行った。

児童の変容
掛け声を聞いて，リズムに合わせて力を入れたり，自分で「うんしょとこしょ。」と言ったりしながら芋を引き抜く姿が見られた。

イ　協議会での意見

【協議1】本時の目標に対して児童はどのような姿であったか。その姿は，どんな教師の働き掛け（発問，活動内容，授業の組み立て等）によって引き出されたか。

- 絵本を読む際に，擬音語を用いたり，問い掛けたりしながら読んだことで，絵本に出てくる言葉ともっているイメージを結び付けることができた。間を十分に取り，表現を待ったことで，せりふを言ったり，動作をしたりするなどの表現を引き出すことができた。
- 芋掘りの場面では，本物の手応えに近い芋掘りを体験できる教材を作成し，使用したことで，意欲を引き出すことができ，積極的に活動に向かおうとする姿が見られた。
- 絵本を基に「生活動作に合った具体物を用意する」という内容から「生活動作に合ったイラストを用いて絵本づくりをする」という内容になるように計画したことで，絵本に出てくる「ことば」のイメージをもって必要なイラストの準備をすることができた。

【協議2】「ことば」のイメージをさらに広げ深め，「ことば」の力を育てるためには，本単元（題材）や本時の学習を，どのような取組につなげていけばよいか。

- 授業では，絵本を基にこれまでの経験やイメージを結び付けたが，学校生活において出てきた動きや物の名前などを絵本の該当する場面で提示することで，さらに結び付いていけるようにしていく。
- 「さつまいも」という同じ題材を生活単元学習での栽培や調理など他教科でも扱うことで，育ち方や触感、味など様々な角度から「さつまいも」のイメージを広げ深めていく。

ウ　指導助言

助言者　広島市教育委員会　主任指導主事　満汐　順子　様

国語科では，教科書として絵本を扱うことが多い。児童のもつ「ことば」のイメージを広げ，深めていくためには，絵本と児童のこれまでの経験や知識とを結び付けていくことが重要であり，児童の経験や知識についての実態把握が鍵となる。特に今年度の研究に関して言えば，授業で設定する活動を通して何がイメージできれば生活に広がっていくか，どんな「ことば」が体得できると自分の「ことば」として使っていけるかを把握しておくことが大切である。今回の授業では，児童の経験をもとに「芋掘り」を実際に近い形で体験できる教材を作成したことで，児童が興味をもって取り組む姿が見られた。また，読み聞かせの際，「ことば」のイメージを育てるために，児童一人一人に合わせて場面に合う簡単な動作を取り入れたり言葉掛けをしたりしたことで，児童の「ことば」を引き出すことができていた。今後も日々の授業の中で振り返りを行い，児童の実態把握をもとに授業づくりを行ってほしい。

（２）　小学部第２学年重複障害学級　国語科の取組

国語科　の授業づくりシート

小学部　第２学年　６組　担任名（　兵頭　紗央里　　森野　睦美　）

単元名：「おはなしをたのしもう～ぞうくんのさんぽ～」

単元の目標：「ことば」のイメージを広げ，深めるため

○　物語の展開に期待感をもちながら，絵本の読み聞かせを見聞きすることができる。
○　絵本に出てくる動物の動きや鳴き声，せりふを模倣し，言葉による表現に親しむことができる。
○　場面の展開を実際に体験することで，場面の様子を声や身体の動きで表現することができる。

実態 **（１名抽出）**	・　数唱や決まったフレーズを聞くと，「どんな風になるのだろう。」という期待感をもった表情になって声を出したり，身体を動かしたりすることがあり，絵本の読み聞かせの際にも繰り返しのある場面では声を出して見聞きすることもある。 ・　発語はなく，楽しいときには「んー。」という声や表情で，気持ちを表現することもあるが，受け身な姿勢でいることが多く，自分から何かを伝えたり表現しようとしたりする姿はあまり見られない。
個別の目標	・　動物が積み上がっていく様子を見たり，「うわぁー！」などの言葉を聞いたりすることで，次の展開への期待感を「んー！」という声や手足を動かす動作で表現しながら，場面の様子を見聞きすることができる。 ・　池に落ちる場面を体験し，「んー。」「うわぁ。」などの声を出したり，緊張した表情，手足の曲げ伸ばしの動きなどで感じたことを表現したりすることができる。

	次ごとの取組	**児童生徒の姿（取組終了時）**
１次	・　大型絵本と動物の役になった教師のやり取りを合わせた読み聞かせを見聞きする。 ・　登場する動物たちの写真や映像を見たり，動きを模倣したりすることで，動物の鳴き声や動きを知る。	・　教師の動作に合わせて手足を動かしたり，声を出したりしながら見聞きすることができた。 ・　モニターの映像に注目し，ぞうの鼻の動きを教師と一緒に手を回す動作で表現したり，鳴き声を「んー。」と，声を長く出すことで表現したりすることができた。
２次	・　大型絵本と動物の役になった教師のやり取りを合わせた読み聞かせを見聞きし，模型を動かして物語の流れを確認する。 ・　登場する動物になって友達と一緒に歩いたり，教師の背中に乗ったりして，散歩する場面を体験する。	・　実際に教師の背中に乗ったり，乗った状態で移動したりする体験をすると，身体で感じた振動を目を見開いた，驚いたような表情で表現したり，手足に力を入れて教師の背中にしがみつくような動作も見られた。
３次	・　大型絵本と動物の役になった教師のやり取りを 合わせた読み聞かせを見聞きし，次に登場する動物を選んだり，倒したりする。 ・　池に落ちる場面を体験し，場面に出てくる言葉の表現やその面白さに親しんだり，物語の結末を感じ取ったりする。	・　教師が「うわぁー！」という言葉に合わせて腕を左右に小刻みに動かす動作で表現すると，同じように動作化し，期待感をもって場面の様子を見聞きしている様子が見られた。 ・　自分の出番だけではなく，友達がやっている様子を見るときにも，オルガンの音や，教師や友達の「うわぁー！」の声を聞くと，「池に落っこちる」ことへの期待感を表情や声，身体の動きで表現することができた。

考察 **（単元終了時）**	・　大型絵本を使用したり，教師２人で手話やジェスチャーを交えながら読み聞かせを行ったことで，以前よりも絵本に注目し，一緒に身体を動かしたり，声を出したり，表情を変えたりしながら，児童自身も物語の世界に入り込んで，次の場面を期待しながら見聞きしている様子が見られた。 ・　自ら体験することに重点を置いたことで，児童の感じたことを，小さな表情の変化から見取ることができたり，期待感から自然と身体が動いたり，声を出したりする様子も見られた。 ・　取組当初には見られなかった，児童の自発的な動きが多くなったり，支援を減らしても同様のことができたりするなど，国語科以外の場面でも，成長を感じられた。

ア　「ことば」のイメージを広げ，深めるための工夫

「うわぁー！」や「どっぼーん！」という表現と「池に落ちる」という場面が結び付きやすいように，池に見立てたプールを用意し，実際に「落ちる」ことを体感できるようにした。

「池に落ちる」ことへの期待感で表情を変えたり，「うわぁー！」と声を出したり，身体を動かしたりして表現することができた。

イ　協議会での意見

【協議１】　本時の目標に対して児童はどのような姿であったか。その姿は，どんな教師の働き掛け（発問，活動内容，授業の組み立て等）によって引き出されたか。

・　１次から３次までの指導計画が丁寧に段階を踏んでおり，物語の流れや動物のイメージを広げることができるようになっているため，児童が物語の内容を理解し，自分なりの表現をしようとしていた。

・　「まねっこソング」や池に落ちるときのオルガンの効果音など児童が物語に入り込むための工夫があることで，児童が期待感をもち，活動に参加することができていた。

・　教師が児童の小さな体の動きや発声を受け止め，言葉掛けをすることで，池に落ちる児童を見ていた友達からも「怖そうだった。」など表情と言葉を結び付けた発言があった。

【協議２】　「ことば」のイメージをさらに広げ深め，「ことば」の力を育てるためには，本単元（題材）や本時の学習を，どのような取組につなげていけばよいか。

・　本単元で体験した感情以外を感じることのできる絵本を取り上げ，体験活動を通じて様々な感情を味わいながら，表現の幅を広げていきたい。

・　ゾウは大きいというイメージを軸に，本時で行ったオルガンの効果音などを用いながら算数科などでも大小や重い軽いなどの学習につなげていきたい。

ウ　指導助言

助言者　広島市教育委員会特別支援教育課　指導主事　中岡　美穂　様

「ことば」のイメージを広げ深めるためには，適切な実態把握をした上で，児童の感情を揺さぶるような体験活動を授業の中に取り入れていくことが大切である。児童の「ことば」は，発声や表情など様々なものがあり，それぞれの児童がどのような表出をするのかを教師が見取っておくことで，適切な目標設定や言葉掛けをすることができる。そして，児童の表出を引き出すためには，「楽しかった。」や「びっくりした。」など児童が自ら伝えたいという気持ちをもてるような体験活動が必要である。今回の授業では，「滑り台を用いて池に落ちる」という体験活動を設定しており，この活動が児童にとって思わず表情が変わってしまい，声を出してしまう活動であったからこそ，児童が積極的に活動に参加し，様々な表出が見られたのではないかと考える。また，体験活動によって引き出された発声や表情の変化を，教師が受け止め，意味付けをし，言葉にしてフィードバックしていくことで，自分の感情と「ことば」が一致していく。今後も，体験活動の中で芽生えた感情から「ことば」のイメージを広げ，深めていってほしい。

(3)　小学部第５学年単一学級の取組

国語科　の授業づくりシート

小学部　第５学年　２組　担任名（　渡邉綾介　佐々岡まや　）

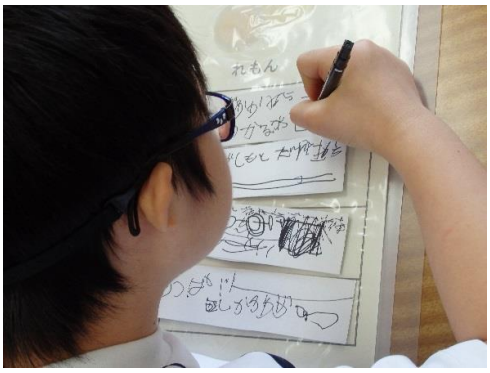
単元・題材名：　「食べ物からことばを知ろう」
単元の目標：「ことば」のイメージを広げ，深めるため ○　食べ物の名前や形，感触などの言葉が分かり，それらの言葉を手掛かりに，その食べ物を選ぶことができる。

実態 **（１名抽出）**	・　嫌なことがあったときに，泣いたり顔を背けたりして思いを表し，要求や主張を言葉で表すことが少ない。 ・　教師とのやり取りの中で使う簡単な言葉であれば，その意味を理解することができる。 ・　具体物を介して表情や身振り，音声で模倣したり応答したりすることを楽しむことができる。
個別の目標	○　食べ物の名前を聞いて，二つの食べ物の選択肢の中から正しい方を取ることができる。

	次ごとの取組	児童の姿（取組終了時）
１次	・　~~食べ物の名前を知る。~~ ・　食べ物を見たり，触ったりして名前や形，感触などの言葉を理解する。	・　ケースに入っているレモンやピーマンを見て，手元に置いてある同じ食べ物をマッチングさせることができた。
２次	・　~~食べ物を見て，触れて，食べて様子を表す感覚言葉を感じ，表出する。~~ ・　提示された名前や形，感触などから連想される食べ物を選び取る。	・　はちみつが入った袋を教師が提示したり，口形を本人の目の前で提示したりすることで，はちみつと抹茶の選択肢の中からはちみつを選び取ることができた。

考察 **（単元終了時）**	・　第１次で食べ物から「ことば」を，第２次で「ことば」から食べ物を理解する学習を双方向的に行ったことで，教師から聞いた言葉に合う食べ物を選んだり，「ざらざら」や「苦い」などの言葉に合う食べ物を選んだりすることができた。 ・　図画工作科での粘土を使った学習や給食に出てくる食べ物を見て，自ら感触を言葉で言い表す姿が見られるようになってきた。 ・　児童によっては実物を用いることで，より学習意欲を引き出すことができた。

ア　「ことば」のイメージを広げ，深めるための工夫



食べ物の名前と，その様子を表すことばを結び付けるために，「たべものずかんファイル」を作った。

↓

既習事項の振り返りに活用することで，自ら適切な表現に気付くことができた。

イ　協議会での意見

【協議１】　本時の目標に対して児童はどのような姿であったか。その姿は，どんな教師の働き掛け（発問，活動内容，授業の組み立て等）によって引き出されたか。

・　写真と教師の表情を子どもたちが真似ていて，よく見ていたし，違いを表そうとしていた。

・　繰り返しの練習の中でできるようになっていた。また，動画やジェスチャーなどの支援や，しっかりと実体験できる活動もあってよかった。

・　一つの感覚についても，表情，音など五感でアプローチすることで，子どもたちが注目できていた。

・　誤答があったとき，ＭＴがＢ児に「なぜそう思った？」と問い掛けたことが良かった。児童の思考につながる。

【協議２】　「ことば」のイメージを更に広げ深め，「ことば」の力を育てるためには，本単元（題材）や本時の学習を，どのような取組につなげていけばよいか。

・　「甘くてザラザラは？」など，クイズ形式にする。さらに，「甘くてザラザラは？」と「甘くてつるつるは？」と，条件を一つだけ変えることで，「甘い」に焦点化することができる。

・　「べたべた図鑑」など，べたべたするものを集めてみるなどして，べたべたにもいろんなべたべたがあるということに気付かせるのもよいのではないか。

ウ　指導助言

助言者　広島市教育センター　指導主事　西田　由香　様

本時では５人の児童それぞれが学習に気持ちを向けて活動することができていた。授業者が，本単元を通して，子どもの様子を見ながら改善を重ねてきた成果である。うまくいった授業の何が良かったかという検証が必要である。それが次時以降の授業を考えていく際のヒントとなる。協議の柱にもある「目標に対する児童の姿」を見るためには，明確な目標が必要となる。本時の目標は「選び取れたかどうか」という点で誰もが評価できる明確な目標設定であった。ＳＴが，具体物を使って指示を出していた。言葉での気持ちの表出が難しい児童にとって有効な方法である。この支援によって，「わかった」「やりたい」という意欲を引き出すことができた。児童に意欲があるときに短時間でも，こちらの意図した指示を理解し，行動につなげるようにしていくとよい。カードで選ぶ・触ってサインを出すなど，児童の意思表示を待つこともポイントである。「食べる」など，実感を伴うことで言葉につながっていく段階の児童にとって，「自分が言いたいことが伝わった」，「伝わったらいいことがある」など，言葉を使うことの意味や良さに気付かせる取組が有効である。「ことば」のイメージを広げ，「ことば」の力を育てるために，一人一人の言語活動の充実，他教科での学習や教育活動全体との関連，言語環境の整理を意識して取組を考えていってほしい。

(4)　中学部第２学年単一障害学級　国語科の取組

国語科　の授業づくりシート

中学部　第２学年　３組　担任名（　吉田　彩夏　後藤　紗椰子　）

単元名：ペープサートを使って表現しよう

単元の目標：「ことば」のイメージを広げ，深めるため

○　「なくしたボタン」の文脈や登場人物の感情の変化を理解し，感情を込めてせりふを言ったり，登場人物の感情を表情や身振りなどで表現したりすることができる。
○　発音や声の大きさに気を付けながら，相手に伝わるように意識して物語のせりふを言うことができる。
○　感触や状態を表す言葉とそれらの言葉が表すイメージを結び付けて理解し，感触や状態を表す言葉を使用しながら，物の特徴を言葉で表現することができる。

実態 **（１名抽出）**	・　文字を一文字ずつ正確に読むことは難しいが，身近な単語を，固まりで捉えながら読むことができるものもある。 ・　緊張する場面では，黙り，意思表示をすることが難しくなる。２～３語文で話すことができる。 ・　他者への質問や意思表示は比較的スムーズにできるが，経験したことを説明する際には，適切な言葉が出ずに黙ってしまうことがある。
個別の目標	○　表情やジェスチャーを使いながら，登場人物の気持ちを表現することができる。 ○　ゆっくりと発声することができる。 ○　自分で言葉を考えながら，物の特徴を説明することができる。

	次ごとの取組	生徒の姿（取組終了時）
１次	・　発声練習をする。 ・　感情について確認する。 ・　「なくしたボタン」の物語を聞き，内容を知る。	・　ゆっくりと発声することは難しく，声も小さい。 ・　嬉しいや悲しいなどの基本的な感情について，表情のイラストを見て，どのような感情かを答えることができた。 ・　物語をよく聞いていた。
２次	・　発声練習をする。 ・　感情を込めて言葉を言う練習を行う。 ・　「なくしたボタン」のせりふを言う練習を行う。	・　早口になってしまうが，少しずつ声が出てきた。 ・　ジェスチャーを付けながら，感情を込めて言葉を言うことができた。 ・　せりふを部分的に覚えて言うことができた。
３次	・　発声練習をする。 ・　様々な感触と，それらの感触を表す言葉を知る。 ・　「なくしたボタン」のペープサートをする。	・　大きな声が出るようになったが，早口になってしまう。一斉に言う際には，全体のリズムに合わせ，ゆっくりと言うことができた。 ・　具体物を触りながら，二つの選択肢のうち，その感触を表す言葉を選択して表現することができた。 ・　せりふを自分なりの言葉で表現することができた。せりふを言う際には，小さい声になってしまうが，ジェスチャーを付けて表現することができた。
４次	・　発声練習をする。 ・　物の特徴を表現する。 ・　「なくしたボタン」のペープサートを（発表）する。	・　更に大きな声が出るようになった。 ・　感触や状態を説明する言葉がスムーズに出てくるようになった。 ・　大きな声で，ゆっくりとせりふを言うことができる場面が増えてきている。アドリブの場面でも堂々と言葉を発することができている。

考察 **（単元終了時）**	・　単元全体を通して，授業の大まかな流れを統一したことで，生徒が落ち着いて授業に参加することができた。 ・　学習を通して，国語科の授業以外の場面においても，生徒が感触を表す言葉を使用して物事を説明したり，感情を言葉で説明したりする場面が多く見られるようになった。以上から，感情の言葉について，具体的なエピソードの中でジェスチャーや表情を確認する活動や，感触の言葉について，視覚を制限した状態で感触を味わう活動を行ったことで，生徒は，「ことば」についてのイメージを広げたり，深めたりすることができたのではないかと考える。

ア　「ことば」のイメージを広げ，深めるための工夫

経験したことを言葉で説明する力を身に付けるために，ブラックボックスの中に入れた具体物の感触を説明する活動を行った。

生徒の変容
一つの具体物に対して，複数の言葉で表現したり，作業学習など国語科以外の場面においても，「ざらざら」や「つるつる」などの表現をしたりするようになった。

イ　協議会での意見

【協議１】　本時の目標に対して生徒はどのような姿であったか。その姿は，どんな教師の働き掛け（発問，活動内容，授業の組み立て等）によって引き出されたか。

- 声の大きさ表や話し方の速度表により，大きい声，ゆっくり話すなどのレベルが視覚的に分かりやすくなったため，せりふを読む速度が意識できていた。さらに，感触が書かれたカードがホワイトボードに多く提示されていたことで,生徒の自信が引き出されていた。
- ブラックボックスを使うことによって，視覚に頼らず，手触りから感触を表す言葉をイメージして発信することができていた。
- 発声練習や，ブラックボックスによる感触の表現など，すべての活動内容がペープサートに関わりのある組み立てになっていたため，目標を意識し，積極的に活動に取り組んでいた。

【協議２】　「ことば」のイメージをさらに広げ深め,「ことば」の力を育てるためには，本単元や本時の学習を，どのような取組につなげていけばよいか。

- 生徒が自己理解をした上で，他者に伝えていくために,「ちくちく」や「ふわふわ」などの感触が分かってきたら，自分の好きなものや，嫌いなものについて説明する活動につなげる。
- 今回のように具体物から,感触の言葉を伝えるのではなく,「ふわふわ」という単語から，雲や綿などの具体物を思い浮かべるといった活動から感触を表す言葉を広げていく。

ウ　指導助言

助言者　広島市立高須小学校　校長　平本　英二　様

本時は，一人一人の目指す姿が明確に考えられていたため，支援が適切に行われ，それぞれの姿に沿った授業がなされていた。全次を通じて，活動内容がパターン化されており，生徒の活動に対して，即座に評価する場面も見られたことが，生徒の意欲にもつながっているようだった。また，本時は,「残念」という言語表現の際に，残念をイメージした音楽と共に表現をするといったような視覚情報や聴覚情報を用いた工夫も多く，それらをうまく使いながら，感情についての表現を相手に伝えた授業であった。振り返りにおける生徒同士の評価場面では，生徒が友達のことをよく見るという他者評価のできる関係性が，学級経営の中でできており,「ことば」の育ちにつながっていると思われる。さらに，本時は，イラストが自分でも見える形で，ペープサートを行っているので，自分の発した「ことば」とそれに合わせた役をこなすという意味付けができていた。「ことば」を意味あるものとして使う学習がとても大切であるため，本時のように,「ことば」の意味付けを行う活動をさらに行ってほしい。

(5)　高等部第１学年単一障害学級　国語科の取組

国語科　の授業づくりシート

高等部　第１学年１組　担任名（　江口　典子　　守谷　小百合　）

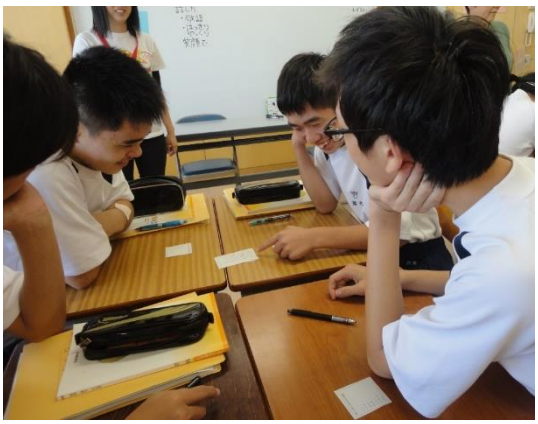
単元名：「インタビューをしよう」
単元の目標：「ことば」のイメージを広げ，深めるため ○　大切なことを聞き取ってメモを取り，それをもとに内容を分かりやすくまとめることができる。 ○　インタビューを通して，相手の話を正確に聞き取ったり，質問の意図を読み取って適切に答えたりすることができる。 ○　相手を意識し，相手に伝わるような声の大きさや速さに気を付けて話すことができる。

実態 **（１名抽出 ）**	・　注意を持続することが難しく，メモを取ると大事なことが欠けてしまうことがある。 ・　複雑な内容になってくると，相手の言っていることを理解しながら話をすることが難しい。 ・　意味が分からないままで使っている言葉が多い。また，相手や場面を意識せず，一方的に話すことが多い。
個別の目標	○　話の要点を捉え，質問に答えることができる。 ○　話の要点を聞き取って，質問に対する答えを書き取ることができる。 ○　相手に伝えることを意識して，インタビューを行うことができる。

	次ごとの取組	**生徒の姿（取組終了時）**
１次	・　ある事柄を聞き取り，分かりやすい。 ・　メモの取り方を学習する。 ・　分かりやすいメモの取り方について話し合う。	・　何を書けばよいか分からず，手が止まってしまう様子が見られた。 ・　友達のメモと自分のメモを比べ，どんなメモが分かりやすいか考えることができた。 ・　話を聞いて質問に答える場面を設定したことで，どんなことをメモすれば良いか気付くことができるようになった。
２次	・　インタビューの仕方を理解する。また，聞くことや聞き方などについてシミュレーションを行う。 ・　聞くことや聞き方などについてシミュレーションを行い，メモの取り方のポイントを学習する。 ・　インタビューの様子を見て，良いところを見付ける。	・　インタビューの質問の仕方や聞き方を見て，どのように質問すれば良いか考えることができた。 ・　教師や友達に質問を行ったことで，インタビューの大まかなイメージができた。 ・　ヒーローインタビューを見て，質問者の良いところ，回答者の良いところを見付け，インタビューをするとき，受けるときに気を付けると良いことに気付くことができた。
３次	・　インタビューをする内容を考える。 ・　インタビューを行う。 ・　インタビューで質問されたことに答える。 ・　インタビューで聞いた内容を発表する。	・　NHK for school の動画を見て、話を聞くときにどんなことに気を付けたら良いのか理解することができた。 ・　聞くときのポイントの「うめラいス」を意識して取り組もうとする様子も見られた。 ・　振り返りで，質問を聞き終える前に答えると，嫌な印象を与えることを指摘してもらい，気を付けたいと意識することができた。 ・　自分の言いたいことを言いたいように言っていたが，相手が分からないときには言い方を変えながら説明しようとする姿が見られるようになってきた。

考察 **（単元終了時）**	・　話の要点を捉えようと，相手の発言に注意しながら話を聞くことができるようになってきた。 ・　友達の「感じが悪いよ。」という指摘に対して「ごめん。」と言うなど友達の注意を素直に聞けるようになってきた。 ・　日常生活の中でも，目を見て人と話すことを意識できるようになった。

ア　「ことば」のイメージを広げ，深めるための工夫



自分の中の「ことば」のイメージとみんなのイメージを摺り合わせたり，いろいろな表現を共有したりできるように，話し合いや意見交流の場面を設定した。

↓

「相手を意識する」や「感じ良い」など抽象的な言葉の意味を理解し，意識できるようになってきた。

イ　協議会での意見

【協議１】　本時の目標に対して生徒はどのような姿であったか。その姿は，どんな教師の働き掛け（発問，活動内容，授業の組み立て等）によって引き出されたか。

- 授業の始めに目標を確認したことで，気を付けることを意識し，ゆっくり話したり，相手が話し終わるまで待ったりする姿が見られた。うなずきもあった。笑顔でインタビューをすることができていた。
- 質問が分からなければ，「もう一度いいですか？」と聞き返すことができていた。
- 最初に筆箱を集め，インタビューをしやすい環境がつくられていた。
- 動画を撮って示すことで，自分自身の評価，振り返りができていた。
- 教師が答えを言うのではなく，「自分がそうされたらどう感じる？」と質問することで相手の気持ちに気付かせていたのが良かった。

【協議２】　「ことば」のイメージを更に広げ深め，「ことば」の力を育てるためには，本単元や本時の学習を，どのような取組につなげていけばよいか。

- インタビューの目的を明確にする。→新聞づくり，発表など
- 作文に取り組むことで，文章表現力を高める。
- 日記の発表，グループ協議を取り入れる。（日常生活の指導：朝の会，帰りの会）
- ヒーローインタビューをする。（体育科）

ウ　指導助言

助言者　広島市立五日市東小学校　校長　西山　美香　様

研究で目指す生徒の姿は「ことば」のイメージを広げ深め，「ことば」を活用しながら発信したり，伝え合ったりする姿であるが，この中に出てくる「ことば」は同じようだけど違い，自分自身が頭の中で考えるために使う，また記憶にとどめたり，思考につなげたりする内言語と，人とのやり取りで使う，コミュニケーションに使う「ことば」つまり外言語がある。（音声言語だけでなく，身振り手振り，書き言葉も含む。）この二つの「ことば」は相互作用によって育っていくので，来年度の副題となっている「伝え合う」という研究の中でも，「ことば」のイメージを広げ深めることができることを期待する。授業の中では，個に応じた支援や整った環境づくり，見通しをもたせる取組，映像による振り返りなどの工夫があったが，ミッションを意識させながら取り組むとより一層生徒の主体的な取組になる。

(6)　高等部第１学年重複障害学級　自立活動の取組

自立活動の授業づくりシート

高等部　第１学年　９組　担任名（　室屋　洋輝　　中村　日吉　）

単元名：「仲良し三人組と素敵な体験」	
単元の目標：「ことば」のイメージを広げ，深めるため ○　取る，拾う，押す，入れるなどの動作を身に付けることができる。 ○　教師とのかかわりの中で，目線を合わせたり，働き掛けに応じたりすることができる。 ○　身近な物の名前や動きの「ことば」を知ることができる。	
実態 **（１名抽出）**	・　物を拾う，押すなどの行動はまだ難しいが，物を取る，入れるなどの基本動作を行うことができる。 ・　周りの様子に気を取られ教師の指示が通らなくなることもあるが，教師が目線を合わせることで，言葉掛けに応じた行動を取ることができる。 ・　普段使うことが少ない物に関しては言語として区別することは難しいが，日常よく使う「かばん」「水筒」などを区別することができている。
個別の目標	○　「○○を取って。」「○○を拾って。」「○○に入れて。」「○○を押して。」などの言葉掛けで行動することができる。 ○　動物，果物の名前をイラストや具体物と関連付けて理解し，二択の中から選択することができる。

	次ごとの取組	生徒の姿（取組終了時）
１次	・　電子黒板で「仲良し三人組の果物狩り」という物語を視聴して，登場する果物の名前を知る。 ・　物語の流れに沿って「取る」という行動をする。	・　果物の名前を聞いて，二択の中から選択することができた。 ・　「取って。」という言葉掛けで，果物を取ることができた。
２次	・　電子黒板で「仲良し三人組と誰の落とし物」という物語を視聴して，登場する動物と日用品の名前を知る。 ・　物語の流れに沿って「拾う」という行動をする。	・　日用品の名前を聞いて，二択の中から選択することができた。 ・　「拾って。」という言葉掛けで，落ちているものを拾うことができた。 ・　生徒同士のかかわりが少なかった。
３次	・　電子黒板で「仲良し三人組の大掃除」という物語を視聴して，登場する日用品の名前を知る。 ・　物語の流れに沿って「押す」という行動をする。	・　掃除道具の名前を聞いて，二択の中から選択することができた。 ・　「押して。」という言葉掛けで，モップや机を押すことができた。
４次	・　電子黒板で「仲良し三人組の果物配達」という物語を視聴して，登場する色の名前を知る。 ・　物語の流れに沿って「入れる」という行動をする。	・　色の名前を聞いて，二択の中から選択することができた。 ・　「入れて。」という言葉掛けで，果物を籠に入れることができた。
５次	・　電子黒板で「仲良し三人組の飼育員体験」という物語を視聴して，登場する動物と果物の名前を知る。 ・　物語の流れに沿って「取る」，「拾う」，「入れる」，「押す」という行動をする。	・　動物の名前を聞いて特徴を基に，二択の中から選択することができた。 ・　「取る」「拾う」「押す」「入れる」という言葉掛けで行動することができた。

考察 **（単元終了時）**	・　本単元でのねらいである、言葉掛けに応じて行動する姿は授業前に比べて多くみられるようになった。 ・　物語の流れに沿って活動する学習内容は、生徒の意欲を引き出すことができた。 ・　「取る」「拾う」「押す」「入れる」の順に、動きと言葉を結びつけていく授業計画は生徒の実態に合っており、日常生活でも活用させやすかった。

ア　「ことば」のイメージを広げ，深めるための工夫

物語の世界観の中で身近な物の名前や動きの「ことば」の意味を捉えられるよう，オリジナルの物語に沿った体験活動を設定した。

↓

物語の中で動作を映像で示したり，動作や様子に合わせて「ことば」を添えたりすることで「ことば」と結び付きやすく，物語に沿った活動に生徒が意欲的に取り組むことができた。

イ　協議会での意見

【協議１】　本時の目標に対して生徒はどのような姿であったか。その姿は，どんな教師の働き掛け（発問，活動内容，授業の組み立て等）によって引き出されたか。

・　教師が「ことば」を選び，端的な「ことば」で伝えているので，伝わりやすい。また，動作に合わせて「ことば」を添えていることで，「ことば」と動作が結び付きやすい。

・　単元構成や授業の流れがしっかりと組み立てられ，物語に沿って生徒の活動を引き出すことができていた。

・　授業の始めに個々の目標を確認し，活動の折にふれて即時評価をするとともに，振り返りの場面で動画を用いて評価をしていたことで活動内容の定着や生徒の達成感につながっていた。

【協議２】　「ことば」のイメージをさらに広げ深め，「ことば」の力を育てるためには，本単元（題材）や本時の学習を，どのような取組につなげていけばよいか。

・　擬音語や擬態語を用い，いろいろな感触を体感したり感覚を働かせたりしながら「ことば」のイメージを広げていく。

・　学習を日常生活の中で，人の役に立つ活動として生かしていく。「ありがとう。」「助かったよ。」という評価を得ることで，活動内容や意味が理解しやすい。

ウ　指導助言

助言者　広島市立みらい創生高等学校　教諭　堀川　淳子　様

生徒の目標に対する評価に関しては，何が生徒の行動を引き出したのか，また反応しやすい条件は何なのかを見極めていくことが大事である。また教師の支援に対する評価の観点として，本授業では「対象物への意識が続く量・タイミングで教材を提示できていたか。」「うまく行動できているときに即時評価できていたか。」が大事であったと考える。授業の中であったように，生徒の活動の様子に応じて臨機応変に回数を調整し，最後に生徒が達成感を感じられるようにすることが大切である。生徒の活動を引き出す間を十分に取ることも心掛けたい。また，授業のあらゆる場面で即時評価が為されていたが，短く，具体的に，即時に評価をすることが評価の鉄則である。教材の選定にあたっては，高等部の発達段階を考え，日常生活の中で繰り返して身に付けること，将来の生活につながる取組，そして仕事につながる「ありがとう。」と言われる教材の設定が大切だと考える。「ことば」を育む上では，「分かることがら」「分かることば」を増やすことが「言えること」につながっていくが，話し言葉以外で伝えられる力が大切になる。それは受け止める人がいて初めて成立し，意味あるやり取りになっていく。教師は子どものアウトプットを見取り，その違いを捉えることのできる「分かってくれる人」（人的環境）となり得ているかを十分に考えていきたいものである。

２　「ことば」の力を育む授業づくりを目指して

主体的・対話的で深い学びを目指し，「ことば」の力を育むための授業づくりの実現のために，全学級で授業づくりシートを活用し，国語科，自立活動の授業実践に取り組んだ。さらに，授業づくりの指標や大切なポイントについても探っていった。７月に実施したスーパー学部研修会と，１２月に実施した各学部研修会において，「ことば」のイメージを広げ，深めるための授業づくりにおける大切なポイント（表２）について，意見交流とともにアンケート調査を行い，整理をした。７月段階では，「表情の変化や微細な動きから表出を読み取る。」，「実体験からイメージを広げる。」などのポイントが挙げられていた。１２月段階では，前述のポイントに加えて，「児童生徒の発信を汲み取り，言語化して伝える。」，「物語の場面の実体験をさせ，『ことば』とつなげていく。」など，児童生徒の「ことば」を汲み取るだけでなく，表出した「ことば」を意味付けして返していくというように，具体化されていることが分かる。このことから，「ことば」のイメージを広げ，深めるための授業づくりにおける大切なポイントについて，教師の中で考えが深まり，明確化しているのではないかと考える。また，全学級における授業実践を経て，児童生徒の発達段階に応じた，「ことば」の力を育むための授業づくりができるよう，特別支援学校学習指導要領国語科に示された目標，内容を基に，「ことば」の力を育むためのキーワードを小学部１段階から，高等部２段階まで，段階ごとにまとめることとした。（表３）各段階における目標や内容を整理することで，より児童生徒の実態に応じた取組を構成し，実践するための指標とすることができると考える。また，この表を，今年度のみではなく，来年度以降も活用していくことで，児童生徒の「ことば」の力を育むための授業づくりを更に充実したものにしたい。

【表２　「ことば」のイメージを広げ，深めるための授業づくりにおける大切なポイント】

スーパー学部研修会（７月実施）	各学部研修会アンケート（１２月実施）
・　表情の変化や，微細な動きから表出を読み取る。	・　児童生徒の発信を汲み取り，言語化して伝える。
・　実体験からイメージを広げる。	・　物語の場面の実体験をさせ，「ことば」とつなげていく。
・　自分自身で考えたり，説明したりする場面を設定する。	・　自分で考えて表現する中で，言葉を自分の「ことば」として身に付けるようにする。

【表３　国語科における「ことば」の指導段階表】

学習指導要領における段階	キーワード
小学部１段階	・　気付く　・　受け止める
小学部２段階	・　身に付ける　・　思いを伝えようとする
小学部３段階	・　思いを具体化する
中学部１段階	・　順序立てて考える
中学部２段階	・　筋道立てて考え，まとめる
高等部１段階	・　目的に応じて，自分の思いや考えをまとめる
高等部２段階	・　目的や意図に応じて，自分の思いや考えを広げたり，まとめたりする

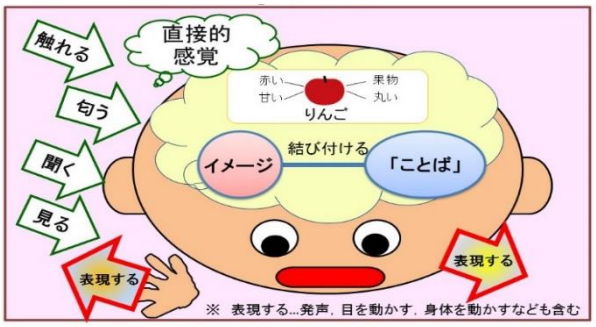
Ⅲ　研究のまとめ

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

今年度の成果としては，大きく３点挙げられる。

１点目は，授業づくりシートの作成やスーパー学部研修会，各学部研修会等を通して，全校で「ことば」のイメージを深めるための授業実践に取り組むことができたことである。全校で取組を進めたことで，「ことば」のイメージを広げ，深めるための授業づくりにおける大切なポイントについて整理をしたり，目指す児童生徒の姿について共有したりすることができたことは，大きな成果であると考える。



２点目は，児童生徒の変容が見られたことである。「ことば」のイメージを広げ，深めるための授業づくりを行ったことで，具体物の操作や，絵本の一場面の疑似体験などを通して，発声や身振り，表情など様々な「ことば」で，物の様子や感覚を説明したり，場面と感情を結び付けて，気持ちを表現したりする姿が見られるようになった。また，授業の中で，体験したり，感じたりしたことを「ことば」で表現する経験を積み重ねたことで，授業以外の場面でも，「ことば」を用いて友達や教師とかかわろうとしたり，自分なりに気持ちや想いを表現したりすることができるようになった児童生徒が増えてきた。

３点目は，今年度の授業実践を，学習指導要領国語科の目標や内容を基に整理し，国語科における「ことば」の指導段階表を作ることができたことである。段階表を作成したことで，「ことば」の力を育むための授業づくりにおける指標を示すことができ，児童生徒の発達段階や実態に応じた授業づくりを進めることができるようになるのではないかと考える。

２　課題

課題としては，国語科の授業については，国語科における「ことば」の指導段階表を作成し，取組を整理することができたが，自立活動については，具体的な授業づくりにおける指標やまとめを提示できなかったことが挙げられる。また，授業づくりシートについては，今年度より書式が新しくなったが，各学部研修会等で，十分に検討の時間を設けることが難しく，作成が形骸化し，授業を振り返り，検討，修正を行うという授業改善のツールとして十分に活用することができなかったということも課題である。

３　今後の展望

今年度の実践を生かし，国語科における「ことば」の指導段階表を活用して，児童生徒の「ことば」の力に対する実態や課題を明確にし，一人一人の実態に応じた，主体的・対話的で深い学びの実現を目指していきたい。また，自立活動についても，取組の共有化とともに，国語科と同様に，主体的・対話的で深い学びの実現を目指していく。そのためにも，授業づくりシートを授業改善のツールとして積極的に活用し，児童生徒の学びの質がより深まるよう取り組んでいきたい。

来年度は，「『ことば』を使って，伝え合おう」を副題として研究に取り組んでいく。今年度の授業実践を通して，児童生徒の中で広がり，深まってきた「ことば」のイメージを基盤に，友達や教師とのかかわりの中で，「ことば」を用いて伝え合うことのできる授業づくりを探求していきたい。

【引用・参考文献】

樋口和彦（2019）「主体的・対話的で深い学びを目指し、思考を支える『ことば』の力を育むための授業づくり―ことばのイメージを広げ、深めるために―」　本校全体研修会講演資料

樋口和彦（2019）「主体的・対話的で深い学びを目指し、思考を支える『ことば』の力を育むための授業づくり―子どもの伝えたい気持ちを育て、ことばの内面化を促進するための手立て―」本校公開授業研究会講演資料

文部科学省（2018）「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則等編（幼稚部・小学部・中学部）」　教育出版

文部科学省（2018）「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）」　教育出版

文部科学省（2018）「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」教育出版

文部科学省（2019）「特別支援学校高等部学習指導要領」教育出版

全日本特別支援教育研究連盟（2018）「平成２９年度版　特別支援学校　新学習指導要領　ポイント総整理　特別支援教育」　東洋館出版社

全国特別支援学校知的障害教育校長会（2019）「知的特別支援学校における　深い学びへのアプローチ」　東洋館出版社

坂口しおり（2009）「コミュニケーション発達支援シリーズ　絵で見ることばと思考の発達」　ジアース教育新社

徳永豊（2014）「障害の重い子どもの目標設定ガイド　授業における「学習到達度チェックリスト」の活用」　慶應義塾大学出版会

独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所「ぱれっと（PALETTE）」作成チーム（2016）「手厚い支援を必要としている子どものための情報パッケージ　ぱれっと（PALETTE）」　ジアース教育新社

飯野順子（2005）「障害の重い子どもの授業づくり　聞く・支える・つなぐをキーワードに」　ジアース教育新社

飯野順子（2010）「障害の重い子どもの授業づくり　Part3 子どもが活動する「子ども主体」の授業を目指して」ジアース教育新社

飯野順子（2011）「障害の重い子どもの授業づくり　Part4 授業のデザイン力と実践的指導力のレベルアップのために」ジアース教育新社

長崎自立活動研究会（2019）「自立活動学習内容要素表」長崎自立活動研究会

特別支援教育の実践研究会編（2019）「特別支援教育の実践情報 8／9 月号」明治図書

特別支援教育の実践研究会編（2018）「特別支援教育の実践情報 8／9 月号」明治図書

特別支援教育の実践研究会編（2019）「特別支援教育の実践情報 12／1 月号」明治図書